

大学の世界展開力強化事業（平成26年度採択）事後評価結果

大 学 名	長岡技術科学大学
整理番号	i-2
事 業 名	長期インターンシップ実績を活用した南インドとの共同実践的技術者教育プログラム

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 A	事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現された。
コメント	
<p>本プログラムは、インド工科大学マドラス校とインド情報・設計・生産技術大学カーンチプラム校の2大学を交流相手先として、高い質保証を伴うサステイナブルな実践的技術者の育成を目指して実施されたものである。</p> <p>技学をキーコンセプトに、将来的なジョイント・ディグリー・プログラムへの発展も視野に入れながら、単位互換制度をベースとする機械・電気専攻における長期派遣の促進や、博士後期課程学生を対象とする共同指導の制度化、産学連携によるインターンシップの展開、教員間の研究交流の促進と研究ユニットの誘致による国際共同研究の推進、現地事務所の相互開設、留学動機付けのための啓発プログラムや情報交換会等が実施されたことは、プログラムを運営する上で実情に合わせて可能な限り様々な現実的対応を行った結果として評価できる。また、取組を行う上で、単に教育プログラムの構築に留まらず産学連携などの枠組みも活用しながら様々な工夫を施したほか、プログラムの波及効果を考慮した現地事務所の開設やインド南部における日本貿易振興機構チェンナイ事務所等との連携協定締結、現地日本企業商工会との交流やCSR活動との連携など、多様なセクターとの結び付きによって補助期間終了後の活動展開のための基盤を構築している。</p> <p>学生の派遣については、現地事務所とインド人教員を含むコーディネータや生活・研究指導による危機管理の下で、現地滞在中の環境が整備されている。また、受入学生についても、事前説明会やチューター・サポーター制度、日本語クラスの開講や日本企業への就職情報の提供など、プログラム参加前後において様々な対応が行われた。こうした将来を見据えた多角的な実施体制によって本事業における取組に留まらず成果を挙げていることを踏まえ、今後の展開にも期待が持てる。</p> <p>一方で、当初計画されていたジョイント・ディグリー・プログラムの補助期間中の創設に代え、単位互換制度と博士後期課程学生の学位論文共同指導制度が確立されたが、引き続きジョイント・ディグリー・プログラム創設に向けた取組と、柔軟かつ闊達な工学系教育研究交流の更なる展開が望まれる。また、学生の受入・派遣数についてはほぼ目標を達成したものの、中間評価後の2017、2018年度は目標値を下回り、特に単位取得を伴う派遣学生数は目標に届かなかった。安定した学生交流数を維持するための工夫が求められる。</p> <p>最後に、本事業による補助期間は終了したが、引き続き質保証を伴うプログラムを実施することで、我が国の大学教育を牽引し、更なるグローバル展開力の強化に寄与していくことを期待する。</p>	